

[こんな話を聞きました]           考えさせられるところが多いように思います。

事務職員は、「学校事務」という広範な分掌を専門的に担う。

- ・ 経理や人事、福利厚生、渉外、その他の庶務など多岐に及び、関連する法規や通知もおびただしい。それらに精通していることが求められるし、手続き上のミスや遅れも許されない。

事務職員は、学校内外の方との接触が多い。様々な情報が入ってくる。

- ・ 出入りの業者や銀行、郵便局
- ・ 児童・保護者は、評価権を持たない事務職員に直接教員に言えない悩みや不安を言うことがある。
- ・ 教員の私生活上の問題や人間関係上のトラブルなども聞くことがある。

教員は、教育に直接関わること以外は「雑務」として捉える傾向にある。

- ・ ハンコを押さない。時間を守らない。
- ・ 提出期限に無頓着、簡単な書類でもミスが目立つ。
- ・ 予算額も念頭に置かず、高価な教材や旅費を要求する。
- ・ 印刷機器の不具合でも、事務職員に言う。教員の依存性や無頓着さに悩まされることもある。
- ・ 各種会議は、児童の指導を理由に時間を守らない。
- ・ 運用に走る。・・・「何を難しいことを言いよんねん。」
- ・ 教員は自分なりの教具観をもっている。その人の転出とともに、使われなくなったものが、埃をかぶる。
- ・ 夜中まで教室に残って、仕事をする。それが熱心な教員と誤解している。
- ・ 教材作成やワークシート、学級通信でもカラー印刷を好む。
- ・ 裏紙を使ってと言えば、個人情報のがのっているものまで使う。

コミュニケーションの断絶

- ・ 職員室での光景は、コンピュータに向かっている。ストーブを囲みながらの雑談がない。
- ・ 車での通勤で、地域の人と会うこともない。
- ・ 創造性に欠けるためか、前年踏襲や慣行重視の活動が多い。
- ・ 教員は、独自の授業観や指導観で、目標等を自分の都合のよいように自己解釈してしまう。

校務分掌の過度のフラット化

- ・ 本来の鍋ぶた型の組織は、創造性発揮に適している。また、構成員が対等な立場で業務に取り組むので、民主的な組織文化を形成し、自由な雰囲気のできる。そして、それぞれに責任と役割を自己完結的に担う。しかし、「過度」は、専門性や守備範囲を尊重するあまり相互不干渉（過度の協調性）に陥り、独善的な活動やマンネリ化した取組みに終わってしまう。
- ・ 経営と教育は明確に割り切れない。「授業に口を出すな」「経営に口を出すな」とは、いえない。

過度の協調性

- ・ 教員同士、他学年や他教科、他学級のことは批判しにくい。自分が批判されることを恐れる。
- ・ 熱心な教員を批判して、「下」に揃えようとする。
- ・ 「共通理解」といいながら「出る杭を打つ」
- ・ 同僚性（批判的友人関係）に欠ける。